

試行業務に関する中間報告

試行1. 業務内容に応じた発注方式選定表

試行の背景・経緯

H26.2.28

●平成25年度 調査設計懇談会

受注者の意見も踏まえ、
新たな発注方式選定表
を各事業毎に作成

H26.6.16

●平成26年度 **試行の開始**
・新たな「発注方式選定表(試行案)」

実施状況の把握
①新たな発注方式選定表の適合分析
②受発注者へのアンケート調査

H26.12.25

●平成26年度 調査設計懇談会
・中間報告

| 河川事業 | | 発注件数(H25年度契約) | | | | | 推奨発注方式 適合率 |
|--------|-----------------------------|---------------|------|------|------|-----|---------------|
| 推奨発注方式 | 業務細目 | プロポ | 総合評価 | 価格競争 | 特命随契 | 計 | |
| プロポ | 環境調査・分析(高度) | 121 | 45 | 24 | 0 | 190 | 64% |
| 総合評価 | 施設健全度調査 | 36 | 40 | 14 | 0 | 90 | 44% |
| 総合評価 | 堤防・護岸設計 | 54 | 277 | 106 | 5 | 442 | 63% |
| 総合評価 | 河川構造物 詳細設計 (樋門・樋管・排水機場等) | 37 | 184 | 47 | 1 | 269 | 68% |
| 総合評価 | 価格 耐震調査 | 27 | 43 | 9 | 0 | 79 | 66% |
| 価格 | 施設点検調査 | 20 | 48 | 38 | 2 | 108 | 35% |

- ①総合評価落札方式等を標準とする業務の中にプロポーザル方式により発注すべき業務があるのではないか。
- ②プロポーザル方式で実施すべき業務が他方式で実施されていることにより、成果品質の低下を招く恐れはないか。

方向性①
プロポーザルなど、それぞれの方式で実施すべき業務の内容、
選定の考え方を明確化

方向性②
適切に発注方式が選定できる選定表の作成

業務内容に応じた新たな発注方式選定表により適正化

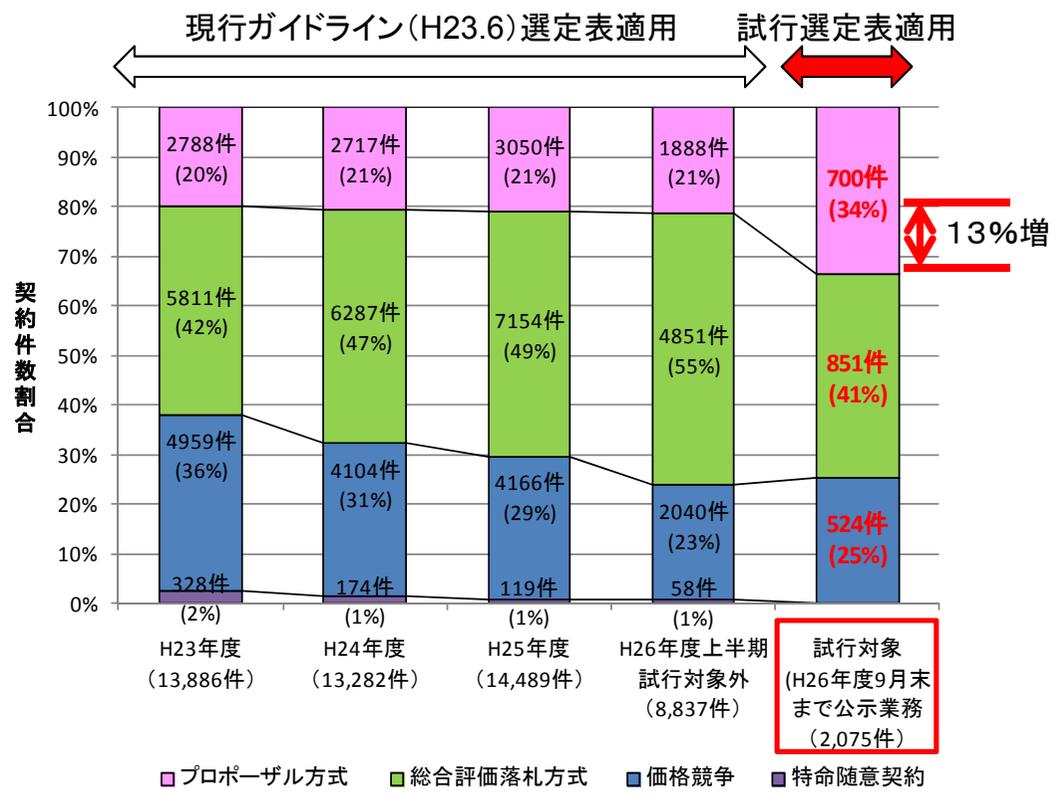
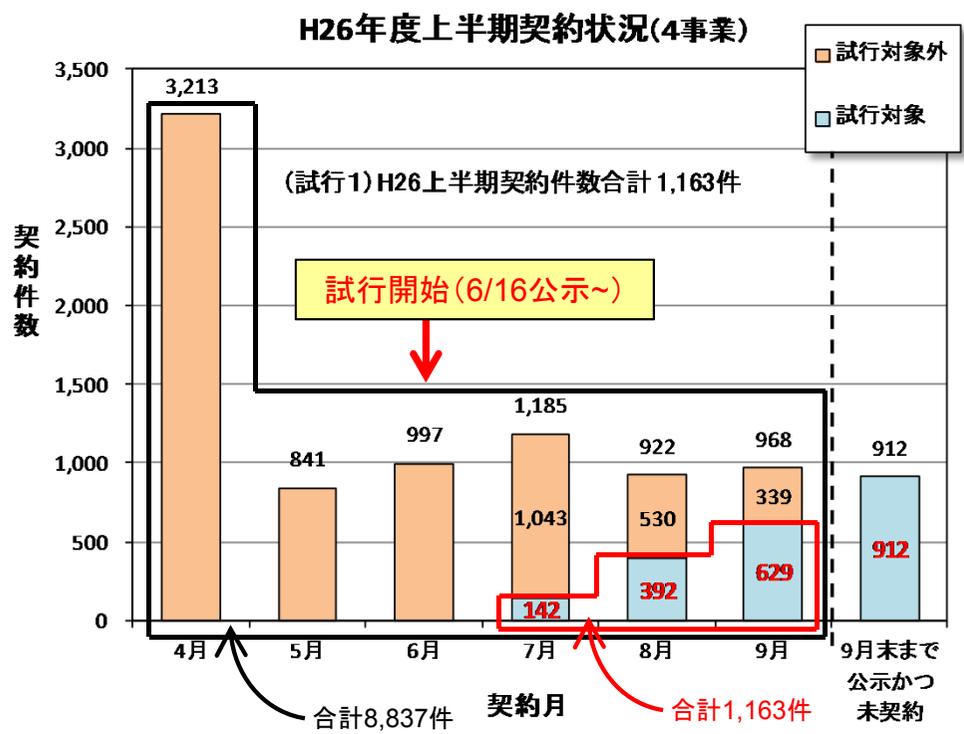
試行1. 発注方式別の実施件数

試行1業務の実施状況

➤ 対象事業：H26.6.16以降に公示される河川事業、道路事業、地質調査、測量調査業務

- 平成26年9月30日現在、契約済の業務件数は8,837件、うち上半期の試行の契約件数は1,163件
- 試行1の対象業務として、公示済の未契約件数は912件。

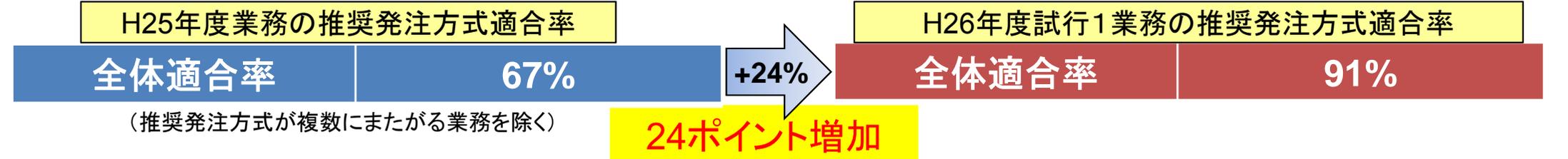
- 試行の前後を比較すると、プロポーザル方式が拡大、総合評価は減少



試行1. 発注方式別の実施件数

推奨発注方式との適合の状況

推奨発注方式適合率は、全ての発注方式で大幅に増加。



| 発注方式 | 事業区分 | 適合率 (推奨方式件数※1 / 全件数※2) | 発注方式全体 |
|------|------|---------------------------|--------|
| プロポ | 河川事業 | 82% (604/738) | 81% |
| | 道路事業 | 91% (95/104) | |
| | 測量調査 | 0% (0/3) | |
| | 地質調査 | 23% (7/31) | |
| 総合評価 | 河川事業 | 68% (708/1,043) | 67% |
| | 道路事業 | 69% (646/935) | |
| | 測量調査 | 55% (6/11) | |
| | 地質調査 | 58% (168/292) | |
| 価格競争 | 河川事業 | 37% (42/114) | 45% |
| | 道路事業 | 42% (157/374) | |
| | 測量調査 | 67% (70/104) | |
| | 地質調査 | —% (0/0) | |

+17%

+22%

+40%

| 発注方式 | 事業区分 | 適合率 (推奨方式件数※1 / 全件数※2) | 発注方式全体 |
|------|------|---------------------------|--------|
| プロポ | 河川事業 | 99% (451/455) | 98% |
| | 道路事業 | 97% (211/217) | |
| | 測量調査 | 100% (1/1) | |
| | 地質調査 | 96% (22/23) | |
| 総合評価 | 河川事業 | 85% (181/213) | 89% |
| | 道路事業 | 90% (360/401) | |
| | 測量調査 | 97% (127/131) | |
| | 地質調査 | 88% (96/109) | |
| 価格競争 | 河川事業 | 94% (46/49) | 85% |
| | 道路事業 | 83% (108/130) | |
| | 測量調査 | 82% (217/265) | |
| | 地質調査 | 93% (75/81) | |

※1 推奨方式件数: 選定表で示された推奨方式通りに発注された業務数

※2 全件数: 選定表で示された推奨方式で発注されるべき業務全数

試行1. 受発注者アンケート結果

入口評価：受発注者へのアンケート結果

発注者、受注者双方ともに、「大部分の業務で業務内容と適合した適切な発注方式が選択された」と認識。

| | プロポーザル方式 | 総合評価落札方式 | 価格競争 |
|-----|--------------|----------------|--------------|
| 発注者 | <p>N=476</p> | <p>N=521</p> | <p>N=602</p> |
| 受注者 | <p>N=642</p> | <p>N=1,039</p> | <p>N=734</p> |

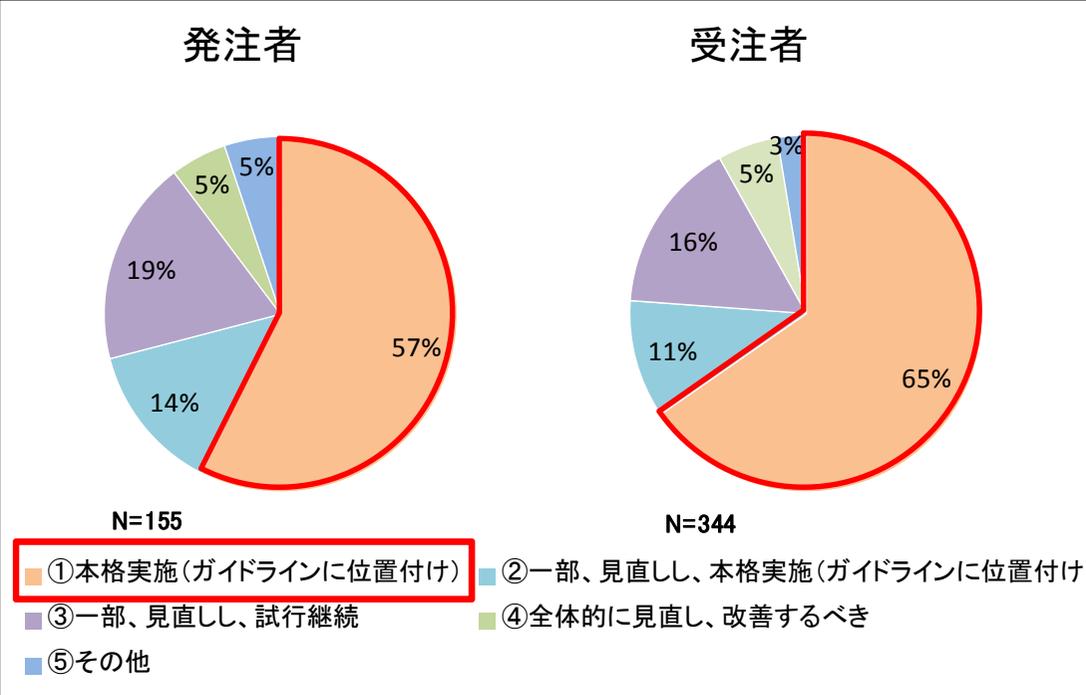
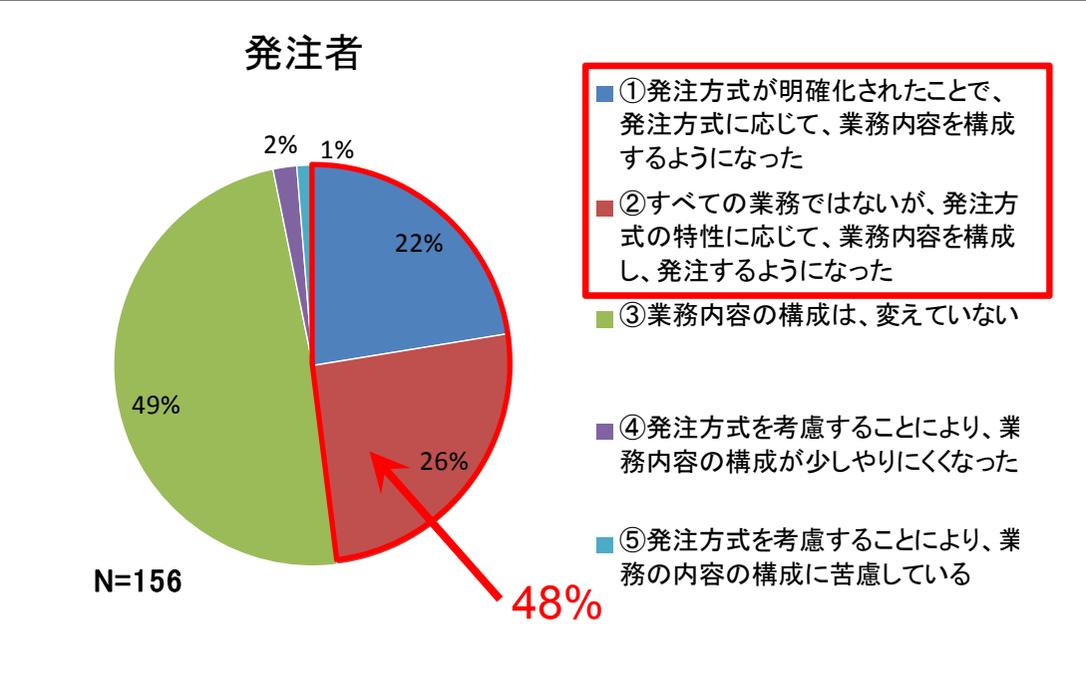
- 凡例:
- ①業務内容に適合した発注方式
 - ②業務内容に概ね適合した発注方式
 - ③業務内容に適合していない発注方式
 - ④どちらとも言えない

試行1. 受発注者アンケート結果

入口評価：受発注者へのアンケート

(発注者)発注方式に見合った内容となるよう業務の構成を検討したか
 ⇒ 業務内容の構成を適切に見直した、との回答が約5割。

(受発注者)本試行の今後の取り組みへの意向
 ⇒ 受発注者ともに、本格実施すべきと回答した割合が約6割、一部見直しの意見が3割程度



その他自由意見(受発注者)

- 受発注者共通
- 業務の規模や難易度等に応じた柔軟な選定ができなくなった
 - 河川や道路等以外の事業についても選定表があるとよい
 - 選定表に記載がない業務もあるため、それらの追加を検討してほしい
 - 「〇〇設計(特殊)」「〇〇設計(一般)」「大規模〇〇」等について、「特殊」、「一般」、「大規模」の目安があるとよい

試行1. 本格実施に向けた評価の方法(案)

「業務内容に応じた適切な発注方式の選定表」の評価方法(案)について

業務全体及び発注方式別に業務成績の平均点及び成績分布により分析

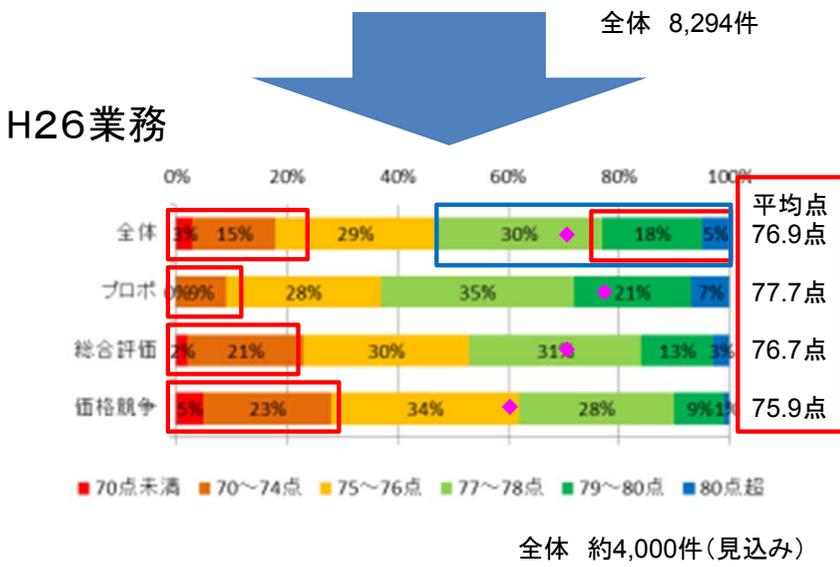
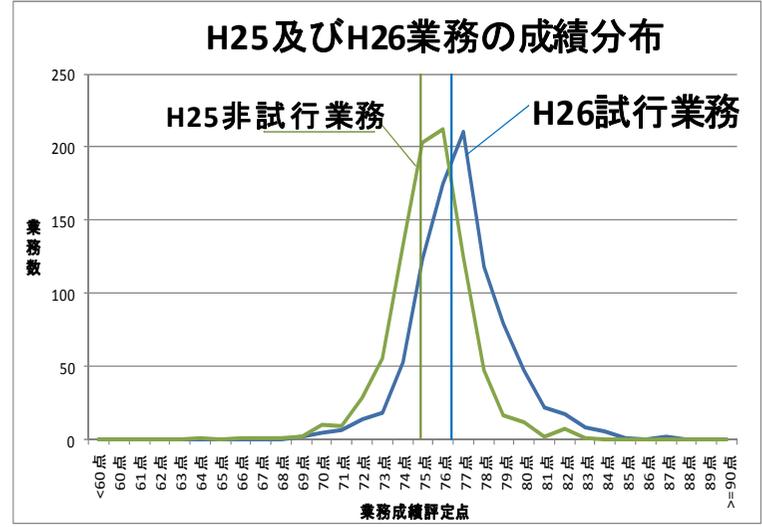
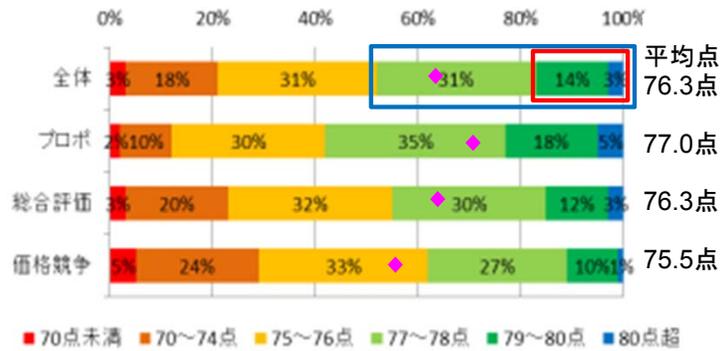
新たな発注方式選定表との適合率

| 事業区分 | 適合率 |
|------|-----------|
| 河川事業 | 75% → 95% |
| 道路事業 | 81% → 91% |
| 測量調査 | 95% → 87% |
| 地質調査 | 80% → 91% |

業務成績をH25業務とH26試行業務とで比較

【分析イメージ】 発注方式別の成績分布

H25業務



試行1. 今後の方針

試行実施状況のまとめ

- ・発注方式選定表に対する適合率
⇒67%→91%に上昇
- ・高い品質が期待できるプロポーザル方式の割合が上昇
⇒21%→34%に上昇

入口評価(アンケート結果)のまとめ

- ・適切な発注方式が選定できている(約9割)
- ・本格実施すべき(約6割)
- ・改善すべき(少数)

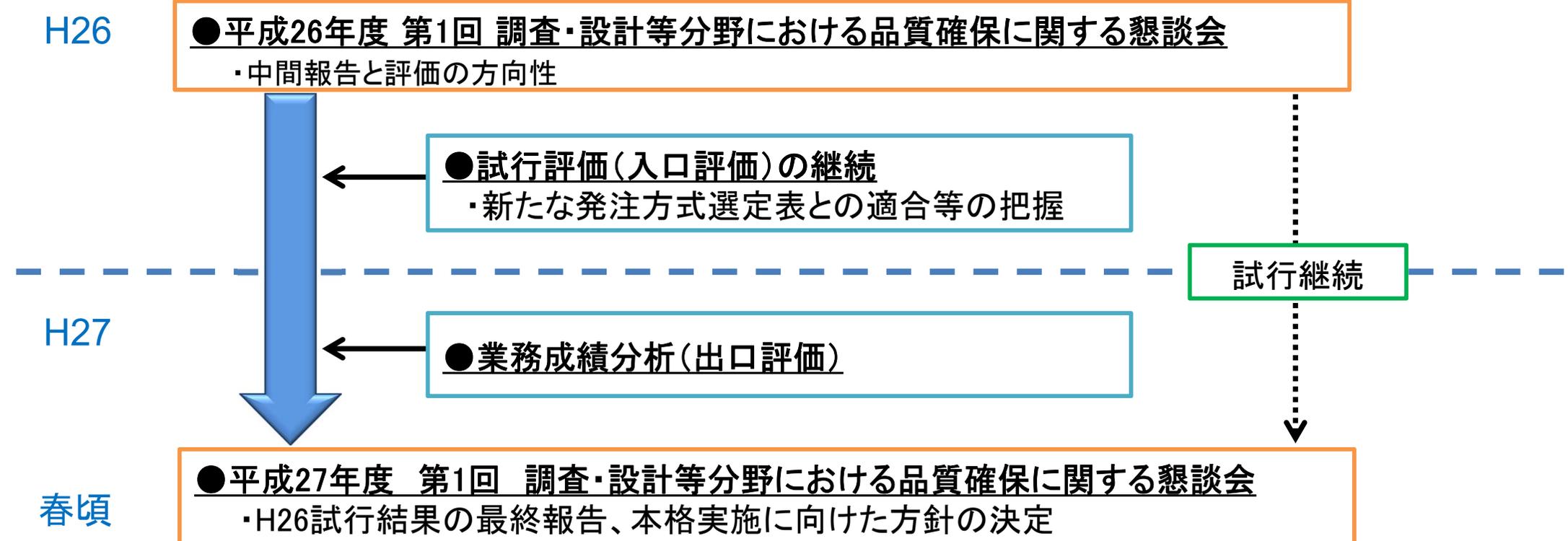
成績の分析結果

- ・業務全体及び発注方式別の業務成績の平均点及び成績分布により分析



今後の方針

試行業務の業務成績を分析・評価後、本懇談会の意見を踏まえ、平成27年度早期の本格実施を目指す。



試行2. 技術者評価を重視した選定

試行の背景

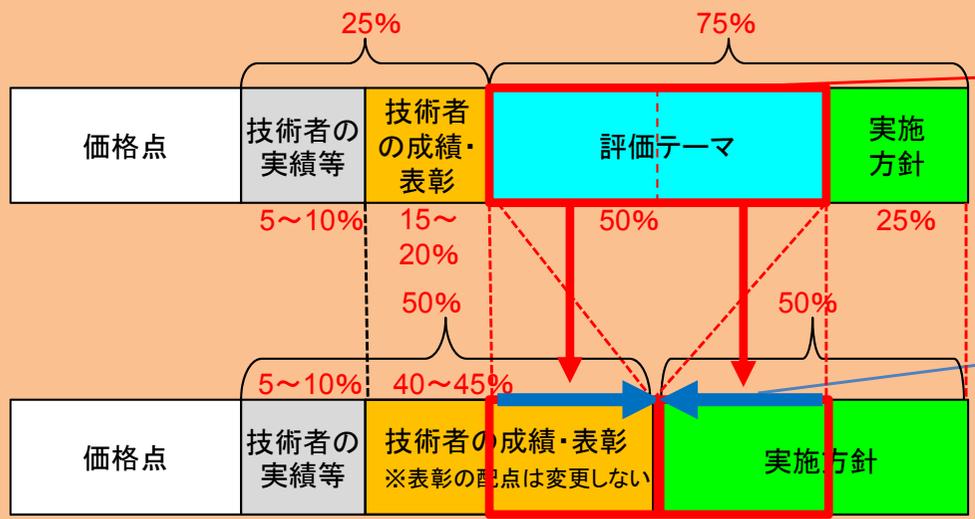
- 受発注ともに評価テーマの作成、審査に負担感が強い。
- 一方、過去の技術者の成績は今回の成績と相関関係が高いにもかかわらず、配点ウェイトが小さく非効率。また、評価テーマと業務成績に相関関係が認められない。
- このため、評価テーマに代えて、技術者の過去の成績と実施方針に重点配分。

試行の実施内容

- 対象工種：総合評価落札方式(標準型)にて発注する業務のうち
 - 河川事業：堤防・護岸設計
 - 道路事業：道路予備(用地幅)、構造物予備(一般)、構造物詳細・補修設計(一般)、道路詳細(一般)
- 試行規模：実施件数は、上記工種毎に2割程度を予定
- 発注方式：総合評価落札方式(1:3)

入札段階の技術評価

【配点案】総合評価落札方式(標準型)



「評価テーマ」の配点割合を、「技術者の成績・表彰」に25%、「実施方針」に25%を配分

ヒアリングの実施
 試行業務では、入札段階の技術評価において、予定管理技術者の過去の実績や業務理解度、業務実施方針等について、配置予定管理技術者と面談し、当該業務の履行に必要な技術力の確認を行うものとする。

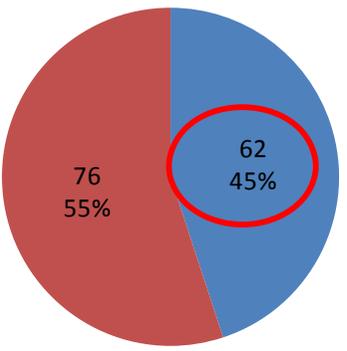
試行2. 実施件数及び受注者の動向分析

試行実施状況

- 試行を開始した6月16日以降の試行対象工種の公示件数は138件(うち契約件数は85件)。
- このうち試行の対象業務は62件であり、4割以上の業務で試行実施。

平成26年6月16日以降に公示された試行業務件数

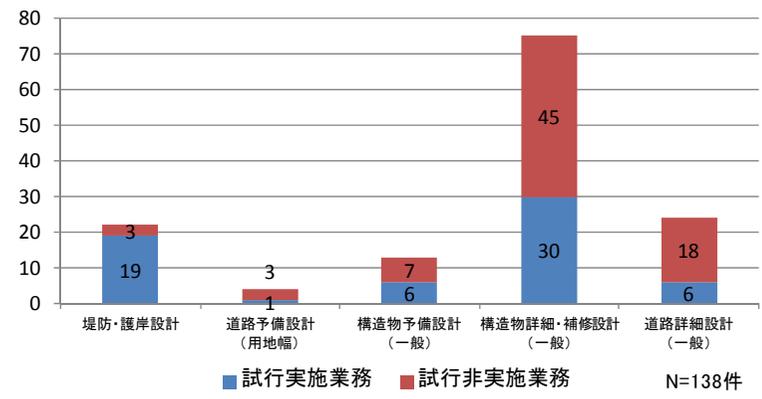
試行2の実施状況(全国)



■ 試行実施業務 ■ 試行非実施業務 N=138件

※対象期間:平成26年6月16日～平成26年10月31日に公示された業務

試行2の実施状況(工種別)



試行実施業務と試行非実施業務における入札参加等の傾向

- 1業務あたりの参加表明者数、入札参加者数の動向 ⇒ 試行の対象か否かで大きな変化は見られない。
- 試行実施業務の落札上位3社占有率、入札参加上位5社占有率は、試行非実施業務に比べて、大きな差はない。
- 現段階では、試行業務への落札・入札参加の特定業者への偏りは見られない。

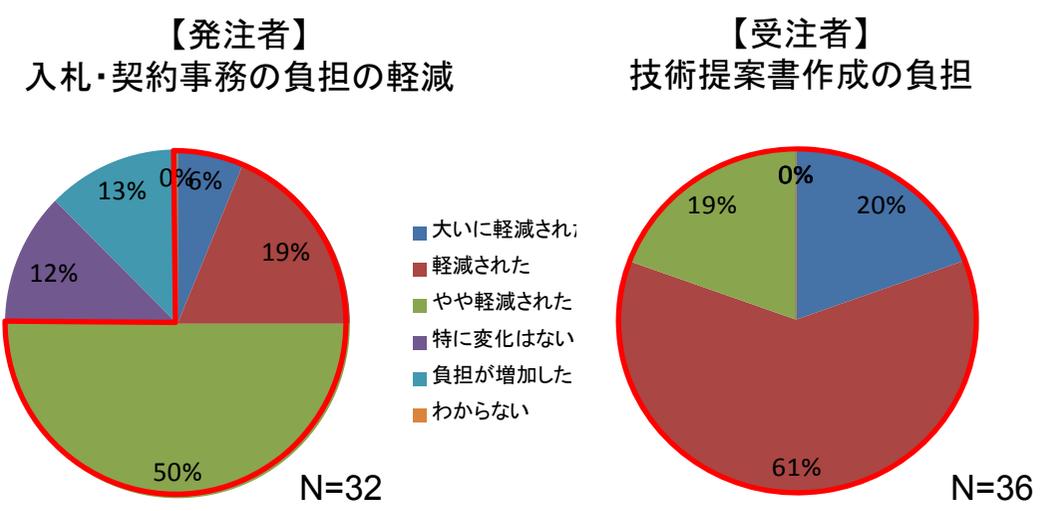
| | 業務件数 (10月末まで契約済) | 延べ入札参加者数 | 1業務当りの入札参加者数 | 延べ参加表明者数 | 1業務当りの参加表明者数 | 落札件数上位3社の総落札件数 | 落札上位3社占有率 | 入札参加上位5社の延べ参加件数 | 入札参加上位5社占有率 |
|---------|---------------------|----------|--------------|----------|--------------|----------------|-----------|-----------------|-------------|
| 試行実施業務 | 36 | 224 | 6.2 | 275 | 7.6 | 12 | 33% | 49 | 22% |
| 試行非実施業務 | 49 | 336 | 6.9 | 396 | 8.1 | 17 | 35% | 98 | 29% |

試行2. 受発注者アンケート結果

「技術者評価を重視した選定」の評価(入口評価①)

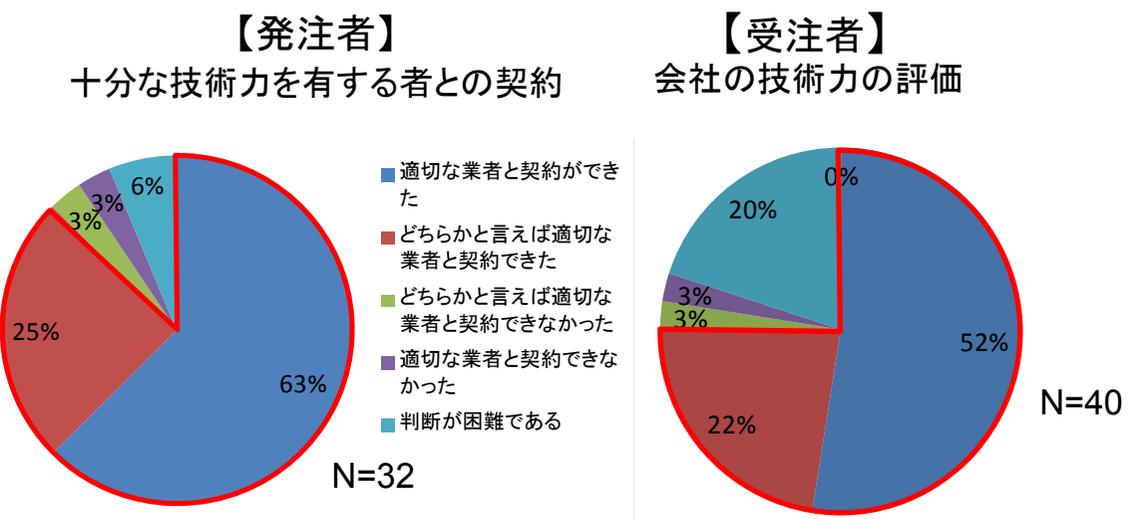
受発注者に対するアンケート

事務的な負担感の軽減



- 発注者の3/4が入札・契約事務負担が軽減したと回答。
- 全ての受注者が技術提案書作成負担が軽減したと回答。

技術力の評価

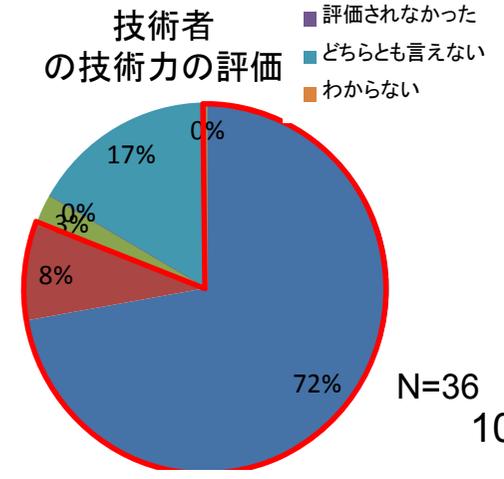


- 発注者の約9割が技術力を有する者と適切な契約ができたと回答。
- 受注者の7割以上が会社の技術力が評価された、約8割が技術者の技術力が評価されたと認識

受発注者アンケートのまとめ

< 発注者 >
負担感が軽減し、十分な技術力を有する適切な者と 契約できたと認識

< 受注者 >
会社及び技術者の能力を評価されていると認識



試行2. 受発注者アンケート結果

その他自由意見

| 発注者 | |
|---|-----|
| ●業務評価点の配点の見直しが必要 | 3件 |
| ●ヒアリングの省略の検討も必要 | 3件 |
| ●ヒアリングが必須となったため、ヒアリングに要する作業負荷が増加(特に、参加者が多い場合) | 3件 |
| ●実施方針や技術者の資質を確認する上でヒアリングは必要(ただし、時間を短縮するなどの工夫が必要と思われる) | 2件 |
| ●過去の業務実績数により平均業務評価点に問題が生じる場合がある 例)77点(42件)、80点(1件)では前者の方が信頼性が高いと考えられるため、業務評価点のみを極端に重視した評価には無理がある | 1件 |
| ●本格導入には、業務内容等を踏まえて、柔軟に適用できるよう配慮が必要 | 2件 |
| | 他5件 |

N=36

| 受注者 | |
|--|-----|
| ●良い試行である。 | 9件 |
| ●試行を継続してもらいたい。 | 3件 |
| ●業務内容や現場特性に応じて、必要により、評価テーマの設定も必要 | 4件 |
| ●試行が全業務に拡大されると、ヒアリングの実施回数が多くなり、その対応に苦慮することが想定される。 | 1件 |
| ●一つの地整で展開する地方コンサルより、平均業務評価点の高い他地整の実績を持つ広域コンサルの方が有利に思える。 | 1件 |
| ●過去の平均業務評価点は、複数物件(5件以上等)で評価して頂きたい。業務実績1件が高評価の場合は、それが過去の平均業務評価点となる。 | 1件 |
| | 他8件 |

N=40

試行2. 本格実施に向けた評価の方法

「技術者評価を重視した選定」導入の効果の評価方法(案)(出口評価)

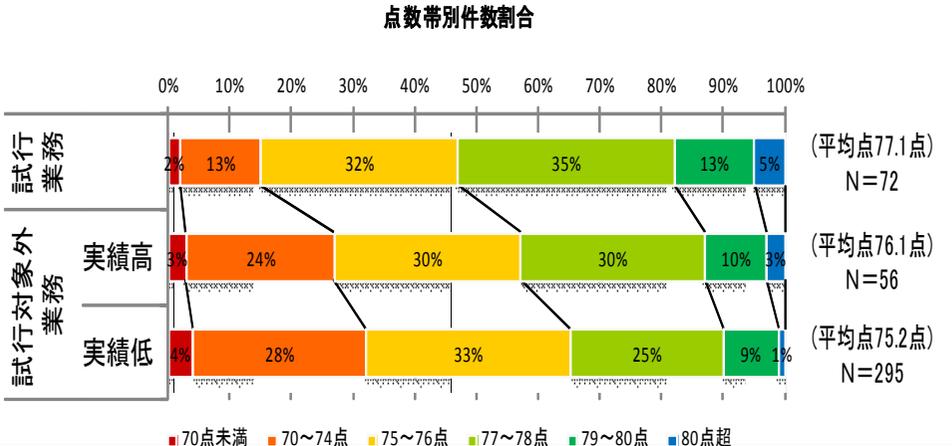
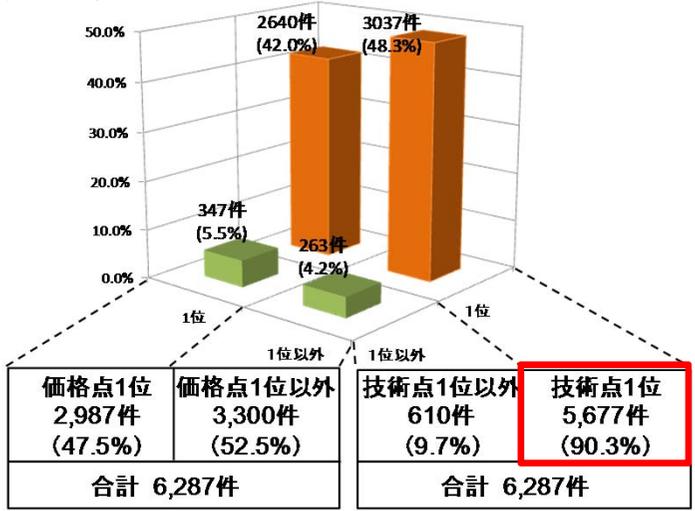
技術者評価の高い企業が受注できているか

技術者の成績評価ウェイトを高めたことにより、品質が向上したか

【分析イメージ】落札者の技術点と価格点による分析

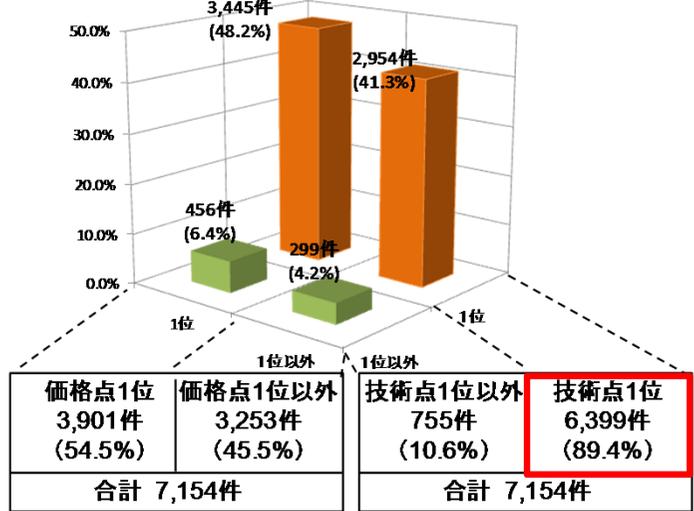
【分析イメージ】業務の成績分布

試行実施業務



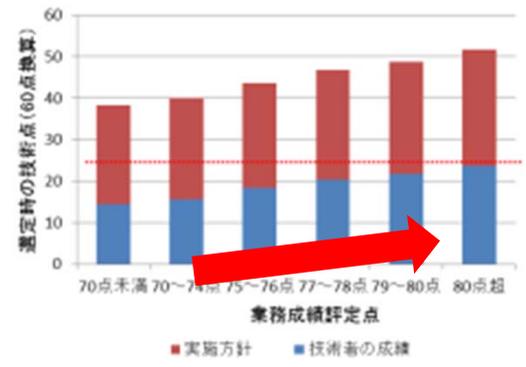
● 試行実施業務は、低い成績割合が少なく、高い得点の業務の割合が多い。

試行非実施業務



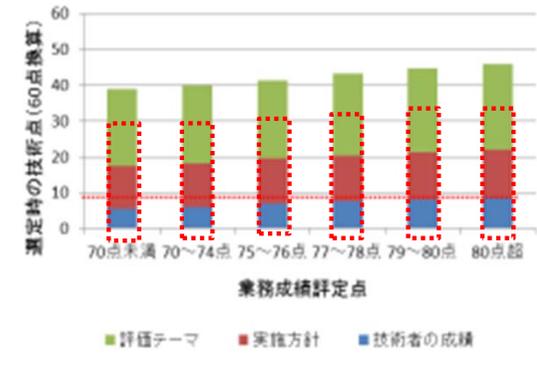
【分析イメージ】入口評価と出口評価の関連性

試行実施業務



● 技術者の実績(成績の得点)と業務成績評点に正の相関が見られる

試行非実施業務



● 実施方針及び評価テーマと業務成績評点との関係は低い

試行2. 今後の方針

試行実施状況のまとめ

- ・試行の実施による、特定の企業への過度な入札参加・落札の集中は見られない

試行導入評価(アンケート結果)のまとめ

- ・事務負担が軽減(約8割)
- ・十分な技術力を有する適切な業者と契約できた(発注者:約9割)
- ・技術力が評価された(受注者:約7割)

成績の分析結果

- ・試行実施業務と試行非実施業務の業務成績の分布と平均を分析



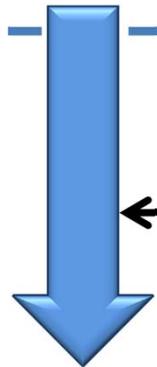
【今後の方針】

- ・受発注者とも事務負担の軽減、技術者重視の評価方法が適切な入札契約として認識された(入口評価)
- ・試行業務の成績を分析・評価後、本懇談会の意見を踏まえ、平成27年度早期の本格実施を目指す。

H26

●平成26年度 第1回 調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会
・中間報告

H27



●**本格実施に向けた評価**
・入札率、技術評価点等の分析(入口評価)
・試行業務の成績分析(出口評価)
●**評価結果を踏まえた今後の方針案の検討**

試行継続

春頃

●調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会
・H26試行の最終報告、今後の方針の決定